

## 「バイオハザード：ザ・ファイナル」

\*\*\*

2017 (平成29) 年1月22日逢寛<TOHOシネマズ西宮OS>

監督：ポール・W・S・アンダーソン

アリス・アバーナシー (元アンブレラ社の特殊作業員)、

アリシア・マーカス (ジェームズ・マーカス博士の娘) / ミラ・ジョヴォヴィッチ

クリア・レッドフィールド (アリスの戦友の女性、レジスタンスの一人) / アリ・ラーター

クリスチャン (ラクーンシティ廃墟の生存者の男、コバルトの恋人) / ウィリアム・レヴィ

アビゲイル (ラクーンシティ廃墟の生存者) / ルビー・ローズ

コバルト (ラクーンシティ廃墟の生存者の女、クリスチャンの恋人) / ローラ

2016年・アメリカ映画・107分

配給/ソニー・ピクチャーズエンタテインメント

◆ ウクライナ・ソビエト社会主義共和国の首都キエフ生まれの女優ミラ・ジョヴォヴィッチがヒロインのアリス役を第1作から第5作まで演じ続けたのが (実写版) 『バイオハザード』シリーズだが、その第6作たる本作は「ザ・ファイナル」とされた (『バイオハザード ディジェネレーション』 (08年) (『シネマルーム21』394頁参照) は実写版ではなく、フルCG版)。

一人の俳優が主演を演じ続けた「シリーズもの」としては、シルベスター・スタローンがロッキーを演じ続けた『ロッキー』シリーズが有名だし、私は同シリーズが大好き。『ロッキー』シリーズでは第6作が『ロッキー・ザ・ファイナル』 (06年) (『シネマルーム14』36頁参照) とタイトルされたが、現実はその後も第7作として『クリード チャンプを継ぐ男』 (15年) (『シネマルーム37』27頁参照) が作られた。同作は同じシルベスター・スタローンが主演しながらも、装い新たな別個の感動的な物語とされたから、今や新たな『ロッキー』シリーズ3部作の登場ではないかと大いに期待されている。

すると、本作も同じように「ザ・ファイナル」とタイトルされているものの、本作に登場したミラ・ジョヴォヴィッチの妻の娘エヴァ・アンダーソンの成長と共に、ひょっとして新たな『バイオハザード』3部作の登場に・・・?

◆ ミラ・ジョヴォヴィッチがヒロインを演じ続けた『バイオハザード』シリーズは、第1作から第6作まで、彼女が40歳になるまで足かけ15年間も続いてきたから立派なものだ。他方、それだけ長く続けば登場人物の入れ替わりも激しくなり、ストーリーが複雑になっていくのはやむをえない。

しかして、本作冒頭では「私はアリス」という定番のセリフの前に、それまでのストーリーが要領よくアリスの口から語られるので、まずはそれを確認しておきたい。とは言っても、よほどの『バイオハザード』シリーズのマニアでなければ、第1作から本作までのストーリー展開や多くの登場人物のキャラの把握は難しい。私自身もあえてそれを勉強し、評論しようという意欲もない。逆にネット情報を集めれば、マニアたちによる本作の評論や「ネタバレ情報」は山ほどある。したがって本作については、「予想以上に面白かった」といういい加減な感想のみのショートコメントでお茶を濁しておきたい。